

第77回 国立病院総合医学会に参加しました！
未来へ向かって
～日本の医療を支える国立病院機構～



2023年10月20日～21日の2日間、国立病院総合医学会が標記テーマのもと、リーガロイヤルホテル広島・広島県立総合体育館・メルパルク広島で開催されました。学会開催担当が中国四国グループであったため、学生もスタッフとして、またシンポジストとして参加しました。全国から約6,000人の参加者が集う中、初めて体験する様々な役割や、約500人の聴講者の前でシンポジストとして発表する機会をいただきました。学会の運営に携わることで多くの体験ができ、多くの学びに繋がりました。



1年生 中川 朋子

私は、今回の学会にスタッフとして参加させていただきました。2日間の学会に計時進行の係で参加し大きな達成感と多くの学びを得ることができました。その中で私が今後実習や臨床の場で看護を行う上で心にとめておかなければならないと思った言葉がありました。それは「多職種連携」です。多くの医療従事者の交流や講演会での発表を見て、医療の現場において多職種連携は患者さんの望む治療やケアを行うために最も重要であるということを知ることができました。このような学びの機会をいただけたことに感謝し、自身の思い描く看護師像に近づくことができるよう今後も勉学に励んでいきたいと思えます。

2年生 宮本 ひかり

私は、今回の学会の「未来を担う看護学生が集い語る地域の特色と看護」というシンポジウムにおいて、「旧海軍と坂の街、呉市に住み続けたいと願う人々の思いを知って考えたこと」というテーマでシンポジストとして発表しました。呉の街で生活している方へのインタビューから、住民の皆さんは、健康を維持しながら住み慣れた地域で安心して暮らせることが生きがいになっており、それが人々の願いであることがわかりました。

その願いを知った上で、看護学生として病院で患者さんと接する際には退院後の生活をイメージしながら関わっていくことが大切であるということを発表しました。

また今回のシンポジウムで、同じ目標を持った全国の看護学生の皆さんと学びを共有でき、幅広い考え方や視野を得る貴重な経験になりました。



3年生 江口 瑞穂

私は、今回の学会において放送係を担い、各講演や閉会式のアナウンスをさせて頂きました。この役割は時間管理を適切に行う必要があり、時計進行系の学生と協力し予定時間を守るよう努めました。座長との進行調整では、舞台裏スタッフの方にご支援頂き時間の管理を行いました。会場内の多くの聴講者に緊張もありましたが、責任を持って役割を全うし2日間のスケジュールを無事終えることができ、大きな達成感を感じました。医学会に学生スタッフとして参加させて頂けたことは、チームの一員としての役割を学ぶ貴重な経験となりました。この学びを活かし、自身の役割を理解し、多くの方々と協力する中で患者さんに対してよりよい医療が提供できる看護師になりたいです。

